

赤谷プロジェクト 近況報告

水生昆虫談話会メンバーの来訪

5月10日(日)、水生昆虫談話会員で群馬県自然環境保全審議会委員の掛川優子さん、神奈川環境科学センターの野崎隆夫さん、信州大学の学生他約20名の皆さんが「赤谷の森」を訪れました。



水生昆虫調査の様子

プロジェクトの取組について聞いていただいた後、茂倉沢や小出俣沢で水生昆虫を調査しました。

この中で環境省や国土交通省などにおいても河川の水質環境の指標として、生息している水生昆虫の調査

結果を活用しているなど、参考となる事例について話を聞くことが出来ました。

赤谷プロジェクトでは、溪流環境復元ワーキンググループを設置し、溪流を自然本来の姿に復元する取り組みを進めているところであり、今後は溪流環境の指標として水生昆虫について、より着目していきたいと考えています。

放送大学の面接授業

昨年度から、放送大学群馬学習センターによる面接授業を赤谷森林環境保全ふれあいセンターと(財)日本自然保護協会が連携し、「生物多様性保全と国有林管理」をテーマとして実施しています。

今年度は、5月16日(土)・17日(日)の2日間にわたって「赤谷の森」などを会場として行われ、放送大学の生徒約20名が参加しました。

一日目は、沼田市図書館で赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長から「赤谷プロジェクトの内容とその意義」を、

(財)日本自然保護協会から「生物多様性保全と新しい時代における地域環境管理」などの講義を行いました。



受講生との質疑応答

た。

二日目の野外授業はあいにくの小雨模様でしたが、「赤谷の森」の豊かな自然を観察するとともに、当局OBの長島成和氏が、森林土壌と植生の関係や生物多様性について解説を行いました。

今後このような機会を活用して、林野庁が生物多様性の復元に取り組んでいることをPRしたいと考えています。



現地で「赤谷の森」について学ぶ

を対象として、赤谷プロジェクトの取組について説明し、その後、「赤谷の森」の動物や植物について詳しく解説しました。

「赤谷の森」は、日本海側と太平洋側両方の動植物が生息・生育しており、他の地域に比べ猛禽類の繁殖状況が良好で、非常に豊かで特徴のある自然環境にあることをスライドやブナとイヌブナの標本などを交えながら解説しました。

「地域の皆さんは、意外と身の回りの自然について知らない。関心がない。」との話は教育関係者や地域の方からもよく耳にします。赤谷プロジェクトの環境教育の取組を通じて、これから地域を担っていく子供たちに、身近にある豊かな自然環境に少しでも関心をもってもらえることを期待しています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

新治中学校総合学習への協力

昨年度から、地元新治中学校からの要請で、赤谷プロジェクトの取組を紹介していますが、「関東の森林から」第61号参照)、今年度も5月20日(水)に、同校の一年生約70名



標本を使ってブナとイヌブナの違いを解説